

第3章 別海町の農業・農村の将来像

別海町は広大な大地で約10万頭の牛が「いのち」を育みながら、新鮮な生乳を生み出すとともに、国後島を望むオホーツク海は、サケ・マス・ホタテ・ホッカイシマエビなど「いのち」の宝庫であり、緑の大地と青い海を、清流西別川がつなぐ「^{いのち}生命めぐる大地」です。

別海町の農業は、広大な土地資源と冷涼な気象条件の下で、昭和30年代からの根釧パイロットファーム建設事業を皮切りに、昭和48年から58年にかけて新酪農村建設事業の導入など、約半世紀の歴史を経て日本を代表する酪農地帯としての地位を築きました。

別海町の農村は、豊かで美しい自然景観、これまで蓄積された高い技術力、先人の努力と地域固有の知恵を引き継ぐ人材などに恵まれており、将来にわたって、ゆとりある草地型酪農、摩周湖を源とする豊かな水資源、多様な生物を育む環境、自然に囲まれた暮らしといった豊かな地域資源と大きな可能性を有しています。

このような別海町の農業・農村を持続的に発展させながら、^{いのち}生命が循環する「かけがえのない大地」を次世代へと引き継ぐためには、世代から世代へ、生産者から地域住民へ、都市から農村へと交流が広がり、地域に愛着と誇りを持つ「人がめぐる大地」であるとともに、川や海などの水環境の保全、河畔林などの緑の再生といった環境と調和した農業を目指すことにより、地域住民をはじめ消費者の理解と信頼を得る「水と緑がめぐる大地」であることが大切です。

いま、大きく変化する社会・経済・環境など時代の潮流を見据えながら、別海町固有の優れた可能性を最大限に発揮し、町民はもとより国民の期待に応えていけるような農業・農村の確立を目指して、次の基本的な方針に従い「環境」「個性」「信頼」の3つの視点から描いた将来像を柱に、別海町の農業・農村の振興を図っていきます。

1 基本的な方針

農業や漁業などの一次産業の生産現場を守りながら、地域に代々受け継がれてきた「大地」、「環境」、「食」を次の世代に伝えていける持続可能な農業・農村であるとともに、「個性」ある多様な人材が活躍し、消費者の「信頼」に支えられた農業・農村を目指します。

(1) 食料を安定的に供給する農業・農村の確立

農業生産を担う人材が生産基盤である農地を最大限活用していけるよう、優良農地の確保や農業生産基盤の整備・保全、「個性」ある多様な担い手の育成・確保、地域課題に対応した技術等の導入を推進するとともに、需要に応じた農産物の安定的な生産・供給を推進

します。

(2) 環境と調和のとれた持続可能な農業・農村の確立

農業が「環境」に負荷を与える側面にも着目し、持続可能な農産物の生産・供給を行うとともに、持続的な生産活動を通じて発揮されている多面的機能が維持・増進されるよう、「環境」と調和のとれた農業を推進します。

(3) 誰もが安心して住み続けられる農業・農村の確立

農村において、地域社会を維持しながら農業生産が持続的に行われるよう、地域農業を支える多様な人材の活躍や地域資源を活かした新たな価値の創出を推進するとともに、安心して暮らせる農村づくりを進めます。

(4) 消費者と生産者が支え合う農業・農村の確立

別海町の農業・農村が重要な役割を果たしていることを町民が改めて認識し、貴重な財産として共に育み、将来に引き継いでいけるよう、消費者と生産者、都市と農村との相互理解の醸成と交流を推進し、深い「信頼」を築きます。

町民の声（アンケート結果）抜粋

- 少子高齢化、人口減少が今後も進むことを想定した持続可能な農業・農村振興が急がれます。生産コスト低減・生産性向上は喫緊の課題です。
- 水道料金減免はとても助かったし良い政策であったと思います。別海町の酪農家が平等に恩恵を受ける政策にしてほしい。
- 都会の人々が抱えている酪農へのイメージを現在の大型化・高泌乳化は否定してしまった。
- 別海町だけでなく全国的に見ても太陽光発電の設備により元からある自然景観が失われつつありとても悲しい。太陽光発電パネルの乱立は見直すべきであると思います。
- 農産物直売所がないので建ててほしい。
- 家畜ふん尿の臭いを改善してほしい。
- 都会の若い人に酪農業の魅力を紹介してほしい。
- とにかく町民の人口を増やすことが大切だと思います。子どもたちが安心して学べる地域安心して進学したり就職したりできる地域を作ることが大切だと思うのです。別海町の若者には一度ほかの地域にて生活したとしてもいつかは別海町に戻ってきて生活してもらえると嬉しいです。
- 誘致に金を使わず別海に住みやすくするだけで人口流出は減るし、移住者も増える。
- 定住をしようとする人にとって住みやすい環境を、補助金等を利用して補てん等してほしい。
- クマによる家畜への被害が頻発しています。対策として狩猟免許の取得のための補助、大型動物用の電気牧柵の整備等を考えていただきたいです。

2 別海町が目指す農業・農村の将来像

人と自然が共創する豊かな農業のまち別海

豊富な土地資源を生かし、牧草やサイレージ用とうもろこしを作付けする自給飼料生産基盤に立脚した酪農・畜産経営が展開されています。

土・草・牛のバランスを維持するため、家畜排せつ物を適切に処理し、有機質肥料として農地に還元し、農地の適切な肥培管理を行う循環型農業を基本としつつ、近年はバイオマス資源の利活用やカーボンニュートラルに向けた取組、化学肥料を使用しない有機農業等により、農業と漁業が共存共栄できる「環境」と調和した酪農・畜産が着実に広がっています。

また、こうした適切な農業生産活動のほか、地域住民と共同で行う地域資源の適切な管理（農道の草刈り、花壇整備）を通じ、多様な生物が生息する豊かな水環境の保全、牛が新緑の草地で草を食む姿や大らかな景観の形成など、農業の有する多面的機能が発揮されることで、次代を担う子どもたちに誇れる美しい「環境」が整った酪農郷づくりを推進します。

意欲の高い農業者や農業法人などの多様な経営体が、それぞれの「個性」を活かし、主体性と創意工夫を発揮した経営が展開できるよう、地域計画に基づき、農業の生産基盤である農地を維持・確保し、担い手への農地の集積・集約化を図るとともに、自給飼料の生産拡大を図る草地整備などを計画的に進め、良好な営農条件を備えた農地の確保を推進します。併せて、スマート農業技術等の新技術の導入や機械・施設の整備など生産基盤の強化を図り、生産性の高い食料供給を確立します。

誰もが安心して住み続けられるよう、多様な人材の受入と働きやすい環境づくり、6次産業化等による地域資源を活かした付加価値の創出、営農用水施設や農道などの農村インフラの維持・強化などの取組により、安全で快適な農村を目指します。

農業者は常に、食料生産を通じて国民の健康や生命を守っていることへの誇りを持つとともに、農産物の消費動向を注視し、消費者のニーズに応える安全・安心・良質な生産と、生産に関する情報の積極的な提供により、消費者から高い「信頼」を獲得しています。

また、農村の豊かな自然環境や日本にいないとは思えないような広大な景観、これまで培ってきた郷土の食文化などを活かし、農業者と消費者・都市住民とのふれあいや顔の見える交流活動が盛んに行われることで、農業・農村への理解を醸成するとともに、生産される農産物に対しても確かな絆と、更なる「信頼」の関係を築きます。